

氏 名 松本 貴久
学位記番号 医博乙第248号
学位授与年月日 平成18年12月6日
審査委員 主査 教授 廣田 秋彦
副査 教授 森竹 浩三
副査 教授 岩本喜久生

論文審査の結果の要旨

統合失調症は高頻度に睡眠障害を合併し、睡眠構造の異常についての報告も多い。今日、統合失調症の治療には第一に非定型抗精神病薬が用いられ、その代表的薬剤はリスペリドンであるが、健康なヒトの睡眠構造に対する作用は知られていない。本研究では、健康な男子学生10名を対象にリスペリドンの睡眠構造に与える影響について調べている。

睡眠構造は3夜連続して終夜睡眠ポリグラフ(PSG)を記録し、国際判定基準を用いて判定している。第1夜は順応夜、第2夜(基準夜)をコントロール、第3夜(薬物夜)にリスペリドン1 mgを投与、その30分後にPSG測定を開始し、基準夜と比較検討している。その結果、睡眠時間に占めるstage 2の割合は有意に増加し、REM睡眠の割合は有意に減少していた。さらに、睡眠時間を前、中、後期に3分割して調べてみると、stage 2の有意な増加が前・中期で認められ、前期ではstage 1の有意な減少も見られた。統合失調症における睡眠構造異常としては、stage 1の増加やstage 2の減少が知られており、上記の結果は、リスペリドンが統合失調症における睡眠構造の異常を改善することを示唆する。一方、統合失調症では、REM睡眠の増加と精神症状の悪化との関連が数多く報告されており、リスペリドンのREM睡眠を減少させる作用は、本薬剤が睡眠構造の面から精神症状を改善することを示唆すると結論している。

本研究の成果は、リスペリドンの統合失調症における睡眠障害に対する有用性を示すと共に、REM睡眠異常に関連した他の病態(せん妄やREM睡眠行動障害など)に対しても有用であることを示唆するもので、学位授与に値するものと判断した。